

**『市史研究いちかわ』第 13 号(2022 年 3 月発行)掲載
領塚正浩・畑山智史・阿部常樹「大和田周辺のマガキ化石密集層と稲荷木産ヒゲクジラ」の
修正について**

1. 表題論文の概要

表題論文は、主に下記論文からの引用により成り立っています。

(1)「市川砂州の形成とその後の海退」杉原重夫(1993)

『東北日本における後期更新世以降の古環境と地形発達史の研究-¹⁴C 年代測定データとその意義-』小疇尚・杉原重夫・叶内敦子 37～40 頁

(2)「大和田周辺に分布するマガキ主体の貝層とその ¹⁴C 年代」

領塚正浩・畑山智史・黒住耐二・一木絵理・杉原重夫(2018)

『市史研究いちかわ 第 9 号』51～59 頁

2. 表題論文各項の文中における上記論文の引用の現在の表記について

項		文中における引用の現在の表記
第 1 項	「1. 平田 4 丁目のマガキ化石密集層」	「大和田周辺に分布するマガキ主体の貝層とその ¹⁴ C 年代」領塚ほか(2018)記載事項に、引用元がない文言の加筆、及び引用表示の不足がある。
第 2 項	「2. 市川市文化会館予定地のマガキ化石層」	「市川砂州の形成とその後の海退」杉原(1993)からの間接引用部分に、引用元がない文言の加筆、及び引用表示の不足がある。
第 3 項	「3. 稲荷木 1 丁目のマガキ化石密集層とヒゲクジラ」	「市川砂州の形成とその後の海退」杉原(1993)からの間接引用部分に、年月日及び機関番号の誤記、及び引用元がない文言の加筆(マガキの ¹⁴ C 年代較正值の挿入など)がある。

3. 表題論文の修正内容

上記 1、2 をふまえ、表題論文の該当部分を裏面のとおり修正します。

本文は本市公式ウェブサイト(以下)でも閲覧可能です。



【修正内容】1、2(表面)をふまえ、表題論文の該当部分を以下のとおり修正します。

項	頁・行	現在の表記	修正後の表記
1	6 頁 17 行	堆積していた。	堆積していた(領塚ほか 2018)。
	6 頁 18 行	約 5400g のサンプルを採取し、	約 5400g のサンプルを採取し(領塚ほか 2018)、
	6 頁 19 行	大きさの篩で水洗選別を行った。	大きさの篩で水洗選別を行った(領塚ほか 2018)。
	6 頁 20 ~21 行	ウネナシトマヤ 6.4%、ヒメカノコアサリ 2.1%、アサリ 1.4%と続き、オキシジミ、ヤマトシジミ、カワアイ、タマキビ、ヤカドツノガイなども含まれていた。	ウネナシトマヤ 6.4%、ヒメカノコアサリ 2.1%、アサリ 1.4%(比率は筆者追記)と続き、オキシジミ、ヤマトシジミ、カワアイ、タマキビ、ヤカドツノガイなども含まれていた(領塚ほか 2018)。
	6 頁 23 ~24 行	砂泥底である。	砂泥底である(領塚ほか 2018)。
	6 頁 27 ~28 行	環境であったと考えられる。	環境であったと考えられる(領塚ほか 2018)。
	7 頁 1~2 行	年代が得られた。	年代が得られた(領塚ほか 2018)。
	7 頁 4 行	較正年代で 2415-2260calBP と 2410-2245calBP	較正年代で 2415-2260calBP と 2410-2245calBP(領塚ほか 2018)
2	8 頁 9~15 行	この地点は、市川砂州の南端から約 700m の距離にあり、標高約 1.8m である。現場で地層を確認したところ、上位から盛土約 0.6m、泥炭質粘土層約 0.25m、粘土混じり砂層約 0.65m、マガキの化石密集層約 0.6m、青灰色砂層約 3m 以上となっていた。	「この付近の海拔高度は約 1.8m。現場で確認した地質層序は、上位から、盛土:60cm、泥炭質粘土層:25cm、粘土混じり砂層:65cm、カキ貝殻密集帯:60cm、青灰色砂層:3m 以上である。」(杉原 1993)
	9 頁 1~4 行	地表からの深度は、埋土約 0.7m、暗青灰色砂質シルト約 2.6m、暗青灰色シルト混じり砂層約 4.5m、暗青灰色砂質シルト約 6.7m、暗緑色固結シルト約 8.3m、暗青灰色シルト約 11.1m、暗灰色固結シルト混じり細砂約 13.5m で沖積層基底となり、この下位に 5m 以上の厚い細砂~中砂が続いている。	「地表からの深度は、埋土:0.7m まで、暗青灰色砂質シルト:2.6m、暗青灰色シルト混じり砂層:4.5m、暗青灰色砂質シルト:6.7m、暗緑色固結シルト:8.3m、暗青灰色シルト:11.1m、暗灰色固結シルト混じり細砂:13.5m で沖積層基底となり、この下位に 5m 以上の厚い細砂~中砂が続く。なお、この地点は市川砂州の南端から約 700m のところにあた」(杉原 1993)る。
	9 頁 4~6 行	^{14}C による年代測定を実施したところ、2390 $\pm$ 90yrBP(N-5135)の年代が得られた(杉原 1993)。	^{14}C による年代測定が実施されており、2390 $\pm$ 90yrBP(N-5135)の年代が得られている(杉原 1993)。
3	9 頁 11 ~13 行	地表下約 2.2~2.5m の深さから、マガキの化石密集層とクジラの化石が発見された(杉原 1993)。	「地表下 2.2~2.5m のところからマガキの貝殻層とともにクジラ(おそらく幼児)の脊椎骨、肋骨などが発見された」(杉原 1993)。
	9 頁 13 ~18 行	この地点は、市川砂州の南方約 1.2 km ところにあり、標高約 2m である。露頭で観察できた地質は、上位から砂質シルト層約 0.6m、黄褐色粘土層約 0.7m、灰色砂層約 0.5m、青灰色砂層約 0.4m、マガキの化石密集層(クジラ化石を含む)約 0.3m、青灰色砂層約 0.5m となっている。産出したマガキの一部について、 ^{14}C による年代測定を実施したところ、2310 $\pm$ 130yrBP(N-9634)の年代が得られた(杉原 1993)。	「この地点の海拔高度は約 2m、市川砂州の南側約 1.2km のところにあたる。露頭で観察できた地質層序は、上位から砂質シルト層:60cm、黄褐色粘土層:70cm、灰色砂層:50cm、青灰色砂層:40cm、カキ貝化石層(クジラ化石を含む)、青灰色砂層:50cm である。」(杉原 1993) 産出したマガキの一部について、 ^{14}C による年代測定が実施されており、2310 $\pm$ 130yrBP(Gak-9634)の年代が得られている(杉原 1993)。